

上秋津のスマート農業への取り組み

中山間地における果樹生産のスマート農業化プロジェクト



南紀白浜

紀伊水道

田辺湾

(和歌山県田辺市)
上秋津地区

3方を山に囲まれた果樹栽培が盛んで混住化がすすんだな農村

多様な考えの住民が存在する農村へと



生活スタイルの違いがトラブルに拍車

(農家vs非農家)(旧住民vs新住民)トラブル

家庭の雑排水の用水路への流入や住宅建築による日照問題、防除時の薬剤飛散、施肥にともなう臭い、農機の騒音、地域コミュニティや地域行事への不参加問題、その他。

1955年＝ 540戸 (2,700人)

1985年＝ 600戸

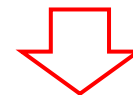
2023年＝ 1286戸 (3,157人) 2023/3末

農村なのに暮らしにくい環境になるのでは？

コミュニティ崩壊への危機感を持ち始める



コミュニティづくりの必要性を実感した時代



地域づくり、コミュニティづくりを加速させようという気運



上秋津地区は果樹農業

昭和のミカン大暴落から学び、いち早く柑橘と梅との果樹の複合栽培体系に

ひとつの品目・品種では、自然災害や政治、経済、消費の変化に耐えられない



温州みかん



晩柑・オレンジ



南高梅

80種類

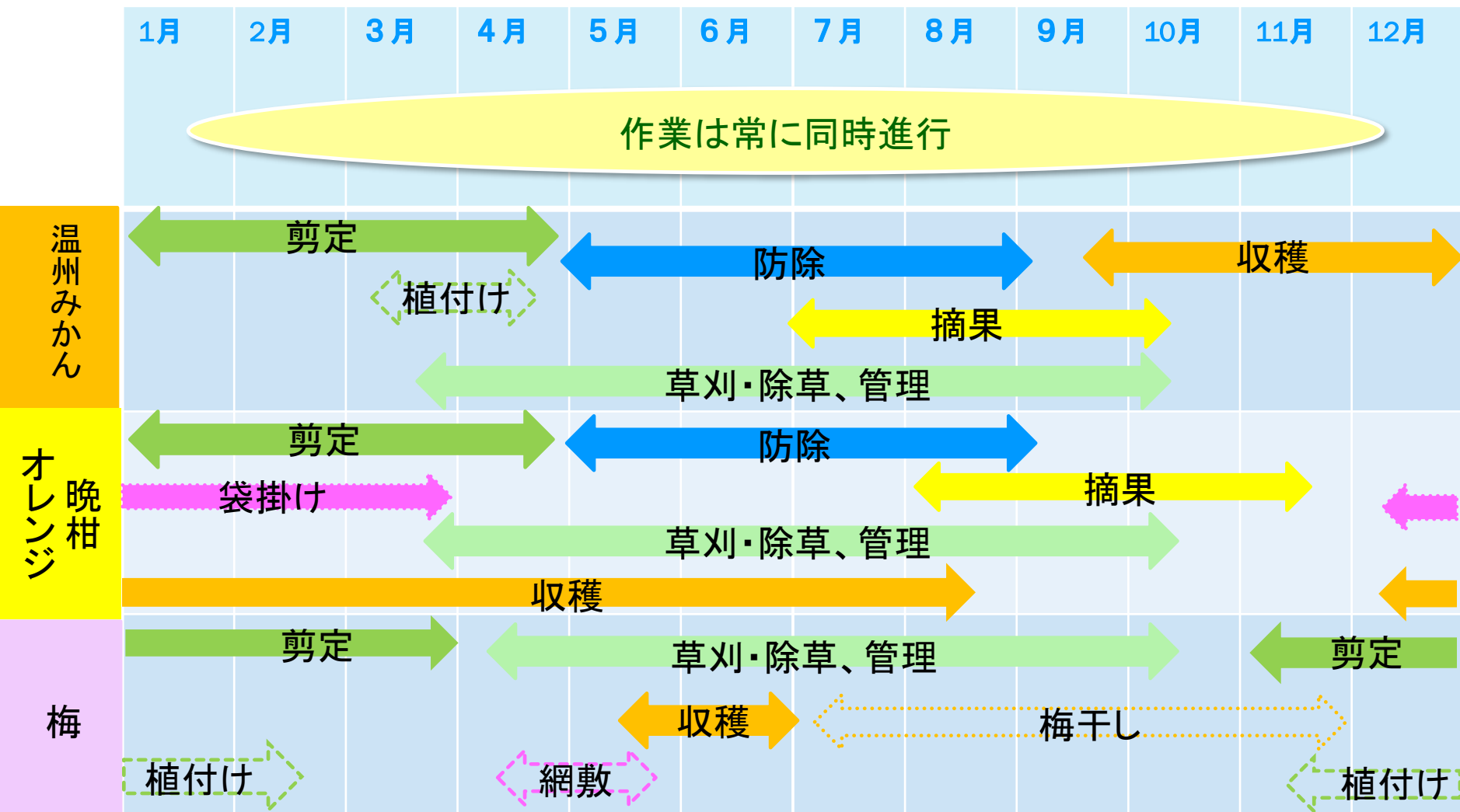
ポンカン・デコポン・三宝・ネーブル・清見・甘夏・カラ・セミノール・ニューサマーオレンジ・バレンシアオレンジ・はるみ、春峰、メーバー、他。紀州南高梅・古城梅・小梅・すもも・甘柿・他。

周年収穫体制をとる農家が多い

収穫時期の分散で人手不足が緩和される

上秋津の年間の作業体系は複雑

周年収穫体制に近い形態の農業のため仕事も複雑に絡み合う



農家は色々な形態の農業経営を行っている

過去からの経験と学びからリスク分散の考えが自然と身についている

出荷先

田辺卸売市場
JA系統出荷(中央市場)
直売所出荷
産地直送
契約先出荷

栽培作物

温州ミカン中心
晩柑・オレンジが中心
梅中心
中心となる作物が無い

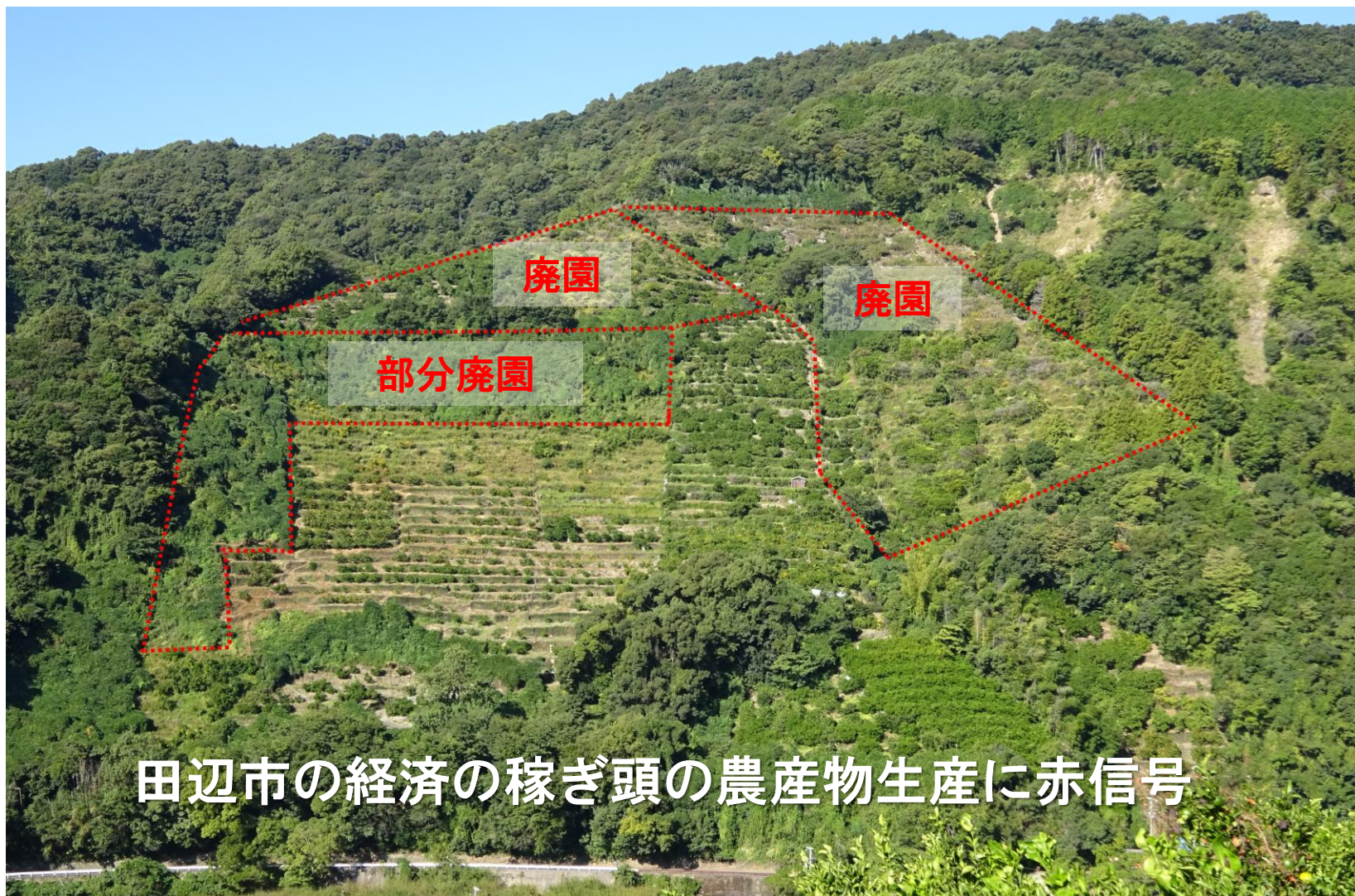
雇用形態

完全家族経営
常備雇用
一次雇用

援農・ワーホリ

平成25年ころから廃園が増加

急傾斜の栽培条件が厳しい園地から**廃園**が増えている
栽培条件の厳しい園地では借り手は現れず放任するしかない



田辺市の経済の稼ぎ頭の農産物生産に赤信号

農村にある地域資源を全て活かし地域づくりをしてきた

住民主体で地域課題解決のため組織や会社を立ち上げ地域を守ってきた



Green Tourism
地域のすべてを活かす



南高梅の収穫作業



南高梅の梅干し作業

住民主体の秋津野地域づくり推進体制

1999年

<https://kiteraga.com/>

株式会社きてら

直売所事業

俺ん家ジュース事業

加工事業・体験事業

コミュニティビジネス

2007年

<https://agarten.jp/>

株式会社秋津野

都市農村交流

農家レストラン、宿泊施設、オーナー制度、
ICTグリーンオフィス、ワーホリ受け入れ窓口
スマート農業実証、農村RMOの研究

コミュニティビジネス

2019年

<https://akizuno.jp/>

株式会社秋津野ゆい

紀州南高梅の生産販売

農機レンタル、スマート農業推進

廃園復活、他

コミュニティビジネス

<https://akizuno.net/>

1994年

秋津野塾

地域にある組織団体を網羅した地域づくり協
議会で平成8年に天皇杯。

協議会

<https://aigoukai.akizuno.net>

1957年

(公益)上秋津愛郷会

所有する財産(森林資源)から得ら
れた収益で地域づくりを支援。

2014年

<https://shinfurusato.jp/>

(一社)ふるさと未来への挑戦

地域づくり中間支援組織

太陽光発電、水力発電による売電で
得られた収益でコミュニティビジネスを支援

和歌山県果樹農業スマート化実証コンソーシアム

令和2年度～令和3年度

株式会社秋津野（代表機関）

和歌山大学 食農総合研究教育センター（共同実証機関）

株式会社きてら（個人生産者） 秋津野直売所『きてら』

株式会社秋津野ゆい（法人生産者）

紀南農業協同組合

田辺市農林水産部

和歌山県西牟婁振興局農林水産振興部